

第2回 薩摩川内市 次世代エネルギービジョン推進会議 議事要旨

I 日時 平成26年3月25日(火) 15:00~17:00

II 場所 川内文化ホール第1会議室

III 出席者(敬称略)

■委員

古川 洽次	日本郵便株式会社 顧問
荒木 貞夫	荒木商事株式会社 代表取締役会長
田中 良一(今藤委員代理)	薩摩川内市商工会 理事
上藪 真歩	南日本ガス株式会社 代表取締役社長
金沢 篤宜	富士通株式会社 鹿児島支店長
本郷 賢和(坂口委員代理)	九州電力株式会社 経営企画本部 長期エネルギー戦略グループ 課長
三本 稔世	Woman 創ing 会長
重田 幸男	京セラ株式会社 鹿児島川内工場長
住吉 文夫	国立大学法人 鹿児島大学 理事 研究担当
田中 陽一郎	公益社団法人日本青年会議所 鹿児島ブロック協議会 顧問
今村 浩(永山委員代理)	南国殖産株式会社 取締役執行役員 都市開発事業部長・企画部長
宮田 雄二(葦迫委員代理)	中越パルプ工業株式会社 川内工場 次長
山元 浩義	川内商工会議所会頭
吉満 祐市	株式会社吉満組 代表取締役会長
渡辺 正信	独立行政法人産業技術総合研究所 九州センター所長

■オブザーバー

西 孝之	九州経済産業局 資源エネルギー環境部 電源開発調整官
塩田 兼一郎	鹿児島県 企画部 エネルギー政策課長

IV 配布資料

資料1 今次会合の狙い

資料2-1 具体的事業の進捗状況

資料2-2 地元部会の開催実績(検討事項及びその結果)

資料2-3 再生可能エネルギーによる地域防災機能強化に関する共同研究会準備会合の結果

資料2-4 進捗管理と評価の仕組みづくり

資料3 平成26年度事業に関する基本的考え方と主な事業

資料4 平成26年度の推進体制(案)

参考資料1 薩摩川内市次世代エネルギービジョン推進会議委員名簿

参考資料2 平成26年度各省庁における次世代エネルギー関連予算一覧

参考資料 3 国のエネルギー政策の議論の動向

参考資料 4 地区コミュニティ協議会との意見交換で頂いた意見と今後の対応

参考資料 5 次世代エネルギー関連行事（イベント）一覧

V 会議進行

1. 開会

- ・第2回薩摩川内市次世代エネルギービジョン推進会議が開会された。

2. 座長あいさつ

- ・古川座長よりごあいさついただいた。

3. 議事（進行：座長）

- ・議事進行は古川座長により執り行われた。

(1) 今次会合の狙い

(2) これまでの取り組み状況等

- ・事務局より、資料1～資料2-4を用いて説明がなされた。

(渡辺委員) 経済産業省の補助金以外は自己財源になるのか。

(事務局) スマートグリッドの実証の経費は、基本九州電力で、その他の事業については、国のお金を引っ張ってきているものもある。超小型モビリティの導入は、国のお金が半分ほど入っている。電気バスのところの8000万円の予算の内半分ほどは国交省の自動車局のお金が入っている。残りは、単費でやっている部分がかかなり多くある。

(西氏) 定量的に表すというのはとても難しく、イベントをやってアンケートを取って満足度を評価するなど、一般的にはそこくらいまでだと思う。薩摩川内市の取組をぜひ参考にさせていただきたい。資料2-2のポイントの1.(2)のところ、後段に国のエネルギー政策の議論の動向等について議論を行ったと記載されているが、国では、エネルギー基本計画が、政府原案が2月末位にできているが、いまは、与党協議をやっている段階で閣議決定までは行っていない状況である。議論の具体的な内容はどのようなものだったかを知りたい。国のエネルギー基本計画が閣議決定した以降、内容を国民にきちんと説明しなければならないと思っている。基本計画が決定したら、自治体と一緒に広報を進めていきたいと思う。エネルギーに関心の高い市民の多い薩摩川内市の状況を聞かせていただきたい。

(事務局) エネルギー基本計画については、地域でそれほど大きな議論があったという訳ではない。我々も、全体を積極的に周知したわけではなく、主に情報提供したのは、買い取り制度についてであった。地域でお金に絡んでくるという意味合いもあり、来年度の買い取り価格がどうなるかに関

心が強いという状況がある。エネルギー基本計画は、地域で計画そのものがしっかり認識されていない部分はある。しかし、地域での議論とかみあってくる部分としては、おそらく原発立地地域の振興に関してということになる。国の今後進めていきたい思惑とぴったり合致する。地域の中で国がどういう役割とはたしていくかということについて、きわめて関心が高いと思われる。

(住吉委員) 一つ目は、シンポジウムのアンケート結果について。シンポジウムは2回行われているが、アンケートの質問をすべて同じでなくても共通の質問を設けて、どのように変化したかということをやるといいのではないかと思う。次に、私は鹿児島県全体の市町村とかかわりがあるため、市外の行政の方の評価について聞く機会があるが、薩摩川内市は進んでいるということをお口にされることが多い。ほかに、他の市町村の市民の方と薩摩川内市民の評価を比較するといいのではないかと思う。

(事務局) たいへん面白い取組だと思う。来年度は、顧客満足度調査をやっていきたく思っているため、今の意見を参考にしながら市民意識のレベル感をしっかりみていけるといいと思っている。

(3) 平成26年度事業に関する基本的考え方と主な事業

- ・事務局より資料3を用いて説明がなされた。

(古川座長) LEDの箇所でも独立電源型街灯について、仕組みなどについて説明して頂きたい。

(事務局) 独立型のものについては、最近は珍しくなくなってきている。系統に接続しないということであれば、割と多くの場所で見かけられるようになってきている。川内港の待合所のところにも、独立型の電源のものがある。一方、余りにもコスト高であるため、競争に出ていくには厳しいため、競争に勝てるようなものにしていただく期待値も込めて、出口部分をサポートできるようにと進めてきているところである。

(今村氏) いよいよ具体的に事業が進み始めたかと期待している。平成26年度の新規事業は、楽しい事業が多く出ている。特にスマートグリッドの実証実験と連動したサービスの提供については、これから得られるデータがどのようになってくるのか、また、モニターが、見える化端末を使うことで電力使用量に関する意識変化がどうなってくるのかがとても関心がある。特に、節約と効率的な消費行動がどうなるかと思う。街路灯のLEDについては、市民にとって一番実感できる事業だと思う。従来の電灯からLEDに代わってどう思うか関心がある。他に、甑島について、エコカーの取組を観光と連携させて取組を強化できないかと思う。新幹線の川内駅、あるいはおれんじ鉄道の川内駅から電気のシャトルバスに乗って川内港へ行って新しい高速船に乗って、甑島に行くというルートを作り、島に渡ると電気自動車やコムスなどが待ち受けているが、電気バスに乗る楽しみ、新しい船に乗る楽しみ、自然の美しさを楽しむコムスの楽しみなど、これらがいいと思う。体験と一体となった観光の商品化を進めて発信していくといいと思う。下甑で採取されている海洋深層水は、九州本土で唯一の自然の恵みであるため、これも、もっとうまく組

み合わせられないかと思う。種子島みたいに、蓄電池を甌島に導入できないかと思う。コストは高いが、これが入ると甌島における再生可能エネルギーの設置、拡大が一気に進むのではないかと思う。これらも今後の課題として考えていけたらと思う。また、スマートハウス普及啓発活動について、多分議論されていると思うが、広報の在り方を進化させていくことが必要だと思う。FMはすごく有効だと思う。たとえば、資料 3 は、市民の方にこのまま見せても難解でわからないと思う。小学生でも理解できるようにわかりやすくして、市報に載せたり、小学校で配ったりすることを考えてはどうだろうか。フェイスブックやホームページを使う場合は、必ず観光客や市民が感想を投稿できる仕組みを作ることで強化していけば、市民との意見交換が進むのではないかと思う。

(事務局) たいへん貴重なご意見ありがとうございます。エコアイランド化を意識した取組は、観光とエネルギーの文脈で取組を強化させていきたいと思う。また、蓄電池の導入、甌島への再エネの導入についても、その可能性を来年度もしっかり検討していきたい。そうすることで、化石燃料に頼らないエネルギーの活用の選択肢が広がるのではないかと思う。広報については、これまでの市役所の広報の在り方は足りない部分があったと思う。今後は、相手にそった形で、どうやれば相手に届くのかということを考えていかなければならないと思う。民間委員が多くいらっしゃるが、ご知見を拝借したいと思う。

(三本委員) 今年、エネマネハウス 2014 が開催されたということだが、大学と企業が連携したモデルハウスに関する展示会があったということだ。その中で、コンセプトがエネルギーとライフとアジアということで、5つの大学がモデルハウスを作成したと聞いて、残念だったのは、うちのスマートハウスの工房は、鹿児島大学と産学官連携で作ったものだったが、その点で一緒にできれば良かったのと思った。建物の中の 24 か所にセンサーが取り付けられていて、コンピューター制御システムがそこに住んでいる方の生活を見守るという機能があり、湿度や照明などを感知したり、窓を開閉して換気をしたり照明を調整したりするシステムによって居住者の健康管理や活動状態を記録し、環境整備をする。システム自身が学習して、進化していくことで居住者の健康や暮らしをよりよくしていくという発想である。これも、薩摩川内市の方で、安全安心の見守りということで進めているため、そのような内部のシステムを参考にしていきたいと思う。また、マーケティングについてだが、消費者は、ダイエット商品が欲しいのではなく、痩せてきれいになったと感じるなどその商品が持つ体験が提供する価値が欲しいから購入するのである。マーケティングは市民のPRの参考になると思うため、パッケージマーケティングについて模索してもよいと思う。

(事務局) きわめて参考になる意見をありがとうございます。家については、まだ出来ている訳ではないため、今後、幅広い連携の仕方を考えていきたい、家は、作るだけでなく数年間使っていかなければならない。家をどう使うか？ということをしっかり考えなければならぬ。ご指摘いただいた点を踏まえ、どういう家にすべきか、鹿児島大学との連携も検討していきたい。マーケティングは、役所は得意ではない。どのようなアプローチをしていくべきかということについて、年

代や属性などもきちんと考慮しながら、委託先のコンサルタントの知恵も借りながら検討していきたい。

(4) 平成 26 年度の推進体制

- ・事務局より、資料 4 を用いて説明がなされた。

(5) 自由討議

(荒木委員) 提案を二つしたい。2 月に薩摩川内市で開催された自治会の審議会があり参加した。その時、自治会の代表がでて意見が多くでたが、ここで研究したテーマやニーズが多く出た。意見の中で、高齢化による健康不安と交通難民・買い物難民などについて多く出た。これらは、わたしどもが過去にいろいろと研究したもので、薩摩川内市が各部署の連携を進めて、具体的な形で進んでいければいいと思う。もう一つは、緊急時における再生エネルギーの使用について。民間レベルの話ではあるが、今回の震災を契機に出してきたのが、地域における石油の供給における円滑な配送ということである。一つは、緊急時であるため、病院、パトカー、消防車などへの円滑な供給ができるということで、薩摩川内市で中核 S S として 2 か所指定されている。これに関しては、エネルギー庁が助成金を出して整備している。電源が途絶えた場合に備え発電機を整備する、衛星回線を整備するなどの決まりがある。もう一つは、老健施設などに燃料配送するなど規定され、タンクローリーを常備することなどが言われている。民間の緊急時対応の案件と、市が進めようとしている緊急時の再生エネルギーの活用の取組とを日頃から情報共有して、連携して進めていけたらと思う。

(事務局) 提案のポイントは非常に重要だと思う。電気だけで賄うのは、難しいと思う。ビジョンの中でも、東日本大震災の際にいろんなエネルギーが果たした役割について記載している。まずは、電気を再エネルギー電源の活用を進める中で、民間事業者との連携を進め、石油やガスの連携可能性を模索していきたい。市は、連携を進めていきたいと考えている。今後も進めていきたい。

(田中(陽)委員) これまで二年間議論を進めてきて取組が順調に進んできており、特にサービスなどは動いており評価できるが、産業振興の部分は、まだ弱いという印象がある。発想の転換が必要なのではないかと感じている。企業誘致や関連産業の振興というところで、大きい部分を見がちになっているのではないかと感じる。地元の中小企業ではつながりが持てないような企業とは事務局がつながっている訳だから、部分、部分の仕事で地元企業ができることはないのかという発想を持ちながら、そういうところを薩摩川内市に持ってくることはできないかという想いを持ちながら、大きな企業や研究を進めているチームとつながっていくことも必要ではないかと思う。そうする中で、会議所などの団体、推進協議会に登録している企業などと発展的に少しずつ産業を増やしていけないかと考えている。そういう取組に力点を置いていただきたい。研究会もそのような方向を持つものを立ち上げていただきたい。

(事務局) 貴重なご意見感謝申し上げます。産業振興となると、大きな企業の誘致となりがちである。それは反省すべきことだと思ふ。そのため、まずは地元で事業活動をやっている方々のビジネスの芽を育てていきたいという発想が一番にある。そこを補う格好で、分野や業種が限定的になるかもしれないが、企業誘致を図れたらと思っている。企業連携協議会で連携して新しい事業を生み出して行く中で足りないパーツがあれば、それを外から持ってくるという発想を考えている。まだ確定していないが、来年度立ち上げようと考えている産業振興の研究会は、そのような発想に基づいて立ち上げようとしている。地元の連携協議会のメンバーを見ると、エネルギーの事業に着目した高機能な素材を扱っている企業が多い。そこに着目し、いま持っているノウハウを使って新製品開発をできないかという問題意識から研究会を進めていきたいと思っている。その中で足りない業種があれば、誘致していくことを検討していきたい。誘致のためにどのようなことが必要かということも研究会で検討していきたい。

(宮田氏) 26年度の推進体制に関して申し上げたい。個別事業に関する研究会等とあり、ビジョンの推進会議と並行して進めていくという話があったが各研究会というのはどのようにフラグを立てていくのか。いろんな研究会の設定は市が主導するのか、または、別の会議がテーマ設定などをした上でメンバーを選ぶのかなど説明してほしい。もう一点は、資料3についてだが、街路灯のLED化はうまくできればいいと思っている。地元企業が育っていくということがメインテーマでもあるため、これが進んでいくといいと思ふ。フィージビリティスタディできちんと検証しないとやらないとうまく進まないと思ふため、しっかりやって頂きたいと思ふ。行政の視点だけではきちんとフィージビリティ調査を行うのは難しいため、サポートできる場所があると思ふので、そこを強化して欲しいと思ふ。6番目の地域防災機能強化研究事業について、薩摩川内市はエネルギーのまちとして、エネルギーに関するツールを持つ形に数年後にはなる。技術的には難しいため10年後以上のタームで考えて貰いたい、巨大災害に直面した際に、エネルギー基地として何ができるのか、地域住民に緊急時にどんなサポートをできるのかということで、各企業が持っているエネルギーインフラをどのように使うことができるのか。行政で、このエネルギーはこの施設から持ってくるができるなど、拠点を決め、仕組みを作っていくことが必要だと思ふ。エネルギー発電設備を作っている民間企業としても、そのように活用して貰えたら嬉しい。

(事務局) 研究会そのものは、市が主導でビジョンや行動計画のテーマに沿った形で立ち上げていきたいと思ふが、果たしてそのスピードがどうかについては推進会議で検証していただく必要があると思ふ。街路灯についても、F Sの検証は、市以外の機関が検証する必要があると思ふ。どのような形がいいのか検討したい。エネルギー防災については、どのような活用可能なエネルギーがあるのか、市をあげて洗い出しをする必要があると思ふ。

(吉満委員) 研究会についてお願いしたい。職員のレベルアップのためにも、職員の研究会への参加をお願いできたらと思ふ。そうすれば、問題意識の共有をより図ることができると思ふ。

(金沢委員) 総務省のICTまちづくり推進事業というのがあり、日本全国で多くのところが取り組んで

いる。九州では、福岡県糸島市で ICT を活用した見守り、唐津市では、唐津ブランド戦略支援型の防災減災システム、武雄市ではエコシステムによる農業活性化などを行っている。これは、最先端の ICT を使いコミュニティの再生や少子化など地域が抱える課題解決を図るものである。たとえば、最先端の ICT の中にはビックデータがある。富士通では浜松市の支援をしているが、計画にはソーシャルネットワークなどに様々なことが書かれており、それらを分析し、今後の政策の参考にしている。そのような情報提供を通じて、薩摩川内市の支援をしていきたい。去年、白キス釣り大会が甕島であり、富士通の社員が数名参加した。釣りは朝早くからやるが、旅館では 7 時からしか朝食が出ないため、参加者としては、おにぎりを作って準備して貰っておいた方がいいと思うだろうが、主催者はそのようなことは知らないのではないかと思われる。そのような意見は、アンケートだけで吸い上げるのは難しいため、そのような情報収集についても活用していくことができるのではないかと思う。

(重田委員) 平成 26 年度の事業に関する基本的な考え方については、ビジョンの行動計画の実行へ向けての具体的な施策であるが、全体的に点の活動になっており、中々、線でつながらない。しかし、これが線につながっていかねば市民の理解を得るのは難しいと考えられる。特に、施策の中で、防災機能強化は線の動きになっており、薩摩川内市で取り組んでいるエネルギービジョンの施策は線につながる事業だと思う。もっと具体的にそれぞれの事業が線につながるような仕組みを考えていくことも必要だと思う。次に、研究会の中で、産業振興ということで薩摩川内市の地元企業を活用して新たなことを創出しようという視点から、とてもいい取組だと思う。我々も、市で産業活動をやっているため、色々な形で入っていき、地元企業活性化に貢献していきたいと思う。研究会でも積極的に意見していきたい。

(事務局) 一点目は、研究会のシナリオづくりにおいて骨太なものに編みこんでいくことが必要だと思う。産業振興については、積極的にご意見いただきたい。

(本郷氏) 昨年度、ビジョンを策定し、一年間取り組んできた。今の段階までくるといろいろなことが目に見えるようになってきており、評価もされてきていると思う。幾つか具体化してきた中で、さらにもっとこのような方向にした方がいいのではないかというような意見も出てきており、非常にレベルの高い取組になっていると思う。エネルギー事業者としては、エネルギーに関する話をするのは難しい部分もあるが、薩摩川内市ではレベルの高い取組が行われているため、具体的な議論ができるようになってきているように感じている。当社も、今後、次世代エネルギーに関する事業をやっていくため、皆様からご意見をいただきたい。

(上菫委員) 二つある。一つめは、情報提供について。緊急時対応のことを話されたが、LP ガスも同じような発想。補助金の制約や予算の都合で、やっていない。補助金があれば欲しいし、補助金など予算があればやりたいと思っている。もう一つは、定量化評価の話が出たが、定量化についてのいいアイデアがないかと考えている。一つは、ある時点における薩摩川内市のエネルギー全体における次世代エネルギーをどのくらいの割合にするのかという発想を持ちやっていくとい

うこと、もう一つは、薩摩川内市の次世代エネルギーの売り上げに対する地元企業のシェアが何パーセントあるかということが重要だと思う。実際に自由化されたとしても、ふたをあけたら、県外の事業者ばかりだったということになりかねない。都市ガス事業も、電力事業同様、自由化が進んでおり、自由化がされたら全国の地方の事業者が廃業してしまったということになってはいけないと思う。おそらく、地産地消や地方分権ということは前提として考えられるはずだと思うが、次世代エネルギーについても、そのことを重視しながら進めていくことが重要だと思う。そのため、実際に取組始める際は、地元企業のシェアを決めてから、始めるといいと思う。

(田中(良)氏) 私は市の郊外に住んでいる。今、関心があるのは、コミュニティ協議会と自治会。4月になるにあたって、コミュニティ協議会と自治会長が交代する。その時に、薩摩川内市が主催して、自治会長向けに研修会を開き、引き継ぎの内容や自治会長の動きなどを伝えている。その席に、このエネルギー話をしていただきたいと思う。時間がなければ、資料を配布して頂きたいと思う。そうやって協力を得ることがよいと思う。

(塩田氏) 鹿児島県においても、今年度再生可能エネルギービジョンを策定中。県内の各地域における特性を生かして再生エネルギーを推進していこうと策定中である。今は、議会等々で説明しているところであるが、エネルギー基本計画は、今年度策定目標としていまだできていない状況であるが、その他決定後に速やかに仕上げていきたい。ビジョンは、一つの指針であり、それをどう実現していくかが重要である。県として取り組むこと、市町村が取り組んでいくこと、事業者として取り組むこと、県民が取り組むことなど、きちんとそれぞれの役割を見据えて、その役割を理解してもらうために何をしていくことが必要か、どのような普及啓発を図っていくかということを考えて実施していきたい。県は、エネルギー政策課ができたところであるが、薩摩川内市では一年半ほど前に設置され取り組んでいる。県内においても、薩摩川内市は、次世代エネルギーに関する取組に関して最先端に位置していると思う。その意味で、自分たちはオブザーバーとして参加しているが、私たちこそ、市の取組を参考にしながら、リーディングケースとして、県内の他自治体に普及させていきたいと思いながら参加していた。県に対して、あてはまる意見だなと思いながら聞いていた。大変積極的に取り組んでいる薩摩川内市においても、市民に対する周知に関して苦労している部分がある状況を聞いたので、エネルギーは社会生活の基盤で重要だと思っているし、日常生活そのものの中にある中で、いかに住民がエネルギーに対して興味や理解を得られるようにする取組を進める必要があると感じた。エネルギーを今後どのようにしていくのかということについて、行政だけではなく、一体となってということが必要だと思う。住民の方々を巻き込んだやり方を進める中で、地産地消、緊急時の対応などを検討することが必要だと思う。薩摩川内市では、地域コミュニティの在り方などについても積極的にやっているのだから、今後も、引き続き対応いただけるとありがたいと思う。

(渡辺委員) 全体的なことについて、総論から始まって、具体的な企画をたてて取組はじめ、今年度はかなり具体的な活動になってきていて、来年度は、それをさらに進めるための組織を立ち上げてやっていくなど、非常にメリハリのある形になっていると思う。個別のことに関しては、例えば、

広報については、地元住民との議論を相当やられていたのにまだ足りていないのだろうかと感じた。それで、PRをやられるということなのだろうが、今後は、具体的な実績を積み重ねることが理解に繋がっていくのではないかと思うので、今後も頑張っ欲しいと思う。また、産業化に関して、得てして大企業よりの話になり、地元企業が置いてかれ気味になってしまうが、今後、その点を留意して検討を進めていってほしいと思う。地元企業のシェアを定量化しようという意見はとてもいいと思う。最後に、定量評価をきちんとしていくことが大事だと思うが、数字だけでは表せないことも起きると思うため、2、3の数字だけ追っていたら違った方向に行ってしまうということもあると思うため、数字を見つつ、本当に目指すところはどこかということを検討して欲しいと思う。

(住吉委員) 先ほどのエネマネのご発言があり、鹿児島大学何をしているの？という質問があったが、鹿児島大学は、戦略的な研究分野を持っていて、前学長が食と健康、環境、島嶼というテーマを設けていた。今の学長は、エネルギーも加えて取り組んでいる。また水を追加しようということになっている。4月からは、水のプロジェクトを立ち上げるために準備している。水については、去年の10月頃から立ち上げて進めている。エネルギーについては、利用技術、その中でバイオマスと太陽光と海洋エネルギーを中心に据えている。活用方策については、建築学科の教授を中心に、防災などソフト面での活用について昨年12月に立ち上がり進めていくところである。今後、具体的な活動が見えてくるようになると思う。昨年度からやっている事業で、県、鹿児島市、薩摩川内市、与論町などと協力してやろうと提案したが、今年は落ちたため、来年度へ向けて提案書を作っているところである。COCセンターというものを作り、地域の声や課題に対して対応していくことを検討しており、事業が採択されなくても、取り組んでいくつもりである。組織対組織の連携は非常に重要で、顔が見えるような形でやっている。今後、教育に生かしていくということに取り組んでいきたいと考えている。そうすれば、学生が地元の企業に就職した際に、得た知識を地元に戻元していくことが可能となる。

(古川座長) 一年間ありがとうございました。

(6) その他

- ・事務局より、参考資料1～5について概要説明がなされた。

4. 閉会

- ・第2回薩摩川内市次世代エネルギービジョン推進会議を閉会した。

以上